

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 10 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2191500020		
法人名	特定非営利活動法人 ひなたぼっこ		
事業所名	そよかぜ		
所在地	中津川市高山1951番地43 (電話) 0573-76-1130		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年1月8日	評価確定日	平成21年2月23日

【情報提供票より】 (平成 20 年 12 月 20 日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 1 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	19 人	常勤 10 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	8.3 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	15,000~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

### (4) 利用者の概要 (平成 20 年 12 月 20 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	名	要介護2	1 名
要介護3	2 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 86 歳	最低 79 歳	最高 97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	古瀬医院、蛭川診療所
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心地から離れた丘陵地の小高い丘の上に、雑木林に囲まれた天恵の地にホームがあり、隣接した障害者居宅施設とも互いに行き来し、顔の見える関係が出来ている中で、NPO法人の1事業として、地域の多くの人から支援を受けて、「公平・平等」の開かれた運営方針のもとで運営されている。管理者と職員が対等な関係で業務は運営されており、経営もガラス張りになっている。基準より多くの職員数が確保されてきめ細かい質の高いケアが行われている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題は、運営推進会議やスタッフ会議に取り上げて、納得のいくまで時間かけ話し合い、法人内の事業部門と連携をとり、水分や栄養等の食事摂取量を、一人ひとり、きめ細かく記入して業務改善につなげた。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価に取り組み、運営会議やスタッフ会議で検討した。今年度目標は一人ひとりの自己決定の支援を大切にケアに取り組んでいくことを課題としている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、運営推進会議が開催され、法人関係者の参加のもと、事業所の行事や利用者、家族、職員の状況を報告したり、地域資源の活用方法や地域の連携など色々なテーマを設け話し合っている。議事録をとり、出された意見をサービスに結びつけている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム便り「そよかぜにのって」を家族に送付している。日々の様子を写真で紹介したり、翌月の予定を記入して、家族に参加を呼びかけている。苦情箱や家族会もあり、常に意見や要望を聞く機会をもうけている。出された苦情・意見・要望は苦情処理委員会で取り上げ、内容を検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に加入して、常会や行事地域活動に参加しており、交流を前向きにとらえている。時々高齢者サロンに参加し、保育園児との交流、地元の祭りや文化祭、農業祭にも出かけている。利用者の作った行事食を近隣に届けたりして、地域に溶け込んだ取り組みが行われている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人権を守り、地域の中で、その人らしい生き方を支えることを柱とし、選択の自由、安心出来る空間、助け合う人間関係など、ホーム独自の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の運営会議・スタッフ会議で理念の追求と実践方法を常に話題とし、職員全員で理念の実践を確認し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	NPO法人であるホームは、賛助会員、正会員が地域の人々である。自治会に加入して毎月の常会に参加したり、地域活動に積極的に関わっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、改善課題を運営会議、スタッフ会議で検討し、業務に活かして利用者一人ひとりの生き方を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催され、地域の民生委員、町づくり委員、近隣の人々が参加し、ほとんどの出席を得ており、ホームの行事への参加もある。会議では、ホームの状況等を報告し、改善課題を話し合い、サービスの向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者は、運営推進会議や法人の総会に出席して、ホームで開催する研修会の講師派遣の協力も得ている。また、市の介護相談員も受け入れたりして、連携を取っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	職員の手作りのそよかせ通信「そよかせにのって」を発行し、日常の暮らしぶりや行事の様子が、写真を掲載し、生き生きと報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自主的に家族アンケートを取り、常に運営に家族の意見を出せる機会を設けている。苦情・意見箱が設置され、出された意見・苦情は、苦情処理委員会が受理し、内容を運営会議に報告・検討し、業務に生かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	地域での評判も良く、入居希望が多くあり、馴染み深い信頼関係が出来ており、利用者、職員の異動もほとんどない。職員は利用者を人生の先輩と敬い、自分たちの学びの場と認識し、離職しなくてよい職場作りに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の教育には、きめ細かい研修カリキュラムが作られている。自主的に外部研修に参加する場合も、ホームのニーズに応じて、費用負担が考慮されている。毎月1回、職員間によるミニ研修を法人内、ホーム内で計画し、実践している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療福祉のネットワークや岐阜県のグループホーム協議会、市のグループホーム部会に加入している。勉強会や研修会に参加したり、他の施設と交流活動や情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地元の職員が多く、顔馴染みだったり、親戚関係であったり、共通の知人であったりして、利用者とは入居前から、馴染みの関係ができており、安心してサービスを利用されている。また、法人のデイサービスを利用しながら、入居を想定した関係づくりに役立っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も利用者も同じ地元出身であることから、生きてきた生活の中で共通の方言を使い、嫁入り衣装話し等の話題もある。地元の文化である常盤歌舞伎を楽しんだり、行事食をお互いに学んだり、遊びなどで支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らしや意向の把握は今年度の重点項目として取り組み、ミーティングやスタッフ会議で主体的な生活を支援する方向で検討している。日常生活の中で、利用者の思いや要望に耳を傾け、すぐ個人記録に記入し、それを基に話し合いがされている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの生活歴を把握したり、要望や馴染みの暮らしの中から、アイデアを出し合い、介護計画をケアマネジャー、担当職員、家族、本人による担当者会議やスタッフ会議で検討、作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、定期的に見直している。利用者の状態の変化や介護記録、個別記録を把握しながら、毎月のスタッフ会議で、利用者の介護計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の助け合い事業で、通院介助を行っている。本人の要望による自宅への帰宅、家族旅行、外出にも柔軟に対応している。また、夜勤はホーム専任で1人だが、棟続きの障害者施設の夜勤者と連携がとられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望で、かかりつけ医の受診は継続されている。かかりつけ医と相談しながら、糖尿病の利用者が専門医に変更され、適切な医療の受診に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、本人の希望があれば、出来るだけ受け入れる方向で、かかりつけ医と家族とも終末期の話し合いをしている。介護職が出来る医療行為を行政と相談しながら、運営会議で検討したが、結果は出していない。	○	ホームの力量を十分検討され、文書化への取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から、一人ひとりの立場や気持ちに配慮した声かけや行動に心がけ、人権とプライバシーの保護の実践を徹底的に議論して職員に意識付けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	予定や規則のない日常生活の上で、自主的な生活を支援している。昼食後はテレビを見る人コタツに入って昼寝をする人、部屋で昼食をとる人、遅い時間に昼食をとる人など、希望に沿ったケアを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材、新鮮な食材、無農薬の食材を心がけ、利用者の好みに応じた献立を作成している。ゆったりした食事介助、方言を交えた会話で、和やかな話題を提供して食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、日中の好きな時間に入浴できるよう準備している。入浴リフトが設備されている。さわら材の浴槽で、広い窓から外の景色も眺められ、温泉の雰囲気がある。入浴剤も天然材料にこだわり、人や環境にやさしいものが使用されている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の自主的な会「考えよまい会」の主催で、忘年会「望年会」と新年会を家族、職員を交えて計画し、実践して、楽しみを作り出している。季節の行事食づくりは一人ひとりの役割があり、自信につながっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりに合わせた外出支援が計画されている。四季に合わせて全員で花見、カラオケ、地域の祭り、農業祭、買い物、喫茶店、散歩等を支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしは、ホームの方針で当たり前となっている。一人ひとりの生活習慣を把握して、気配り、目配りに心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の自主防災会議に出席し、建物避難経路を確認して地域と連携を取り合っている。近隣2軒に火災感知器による通報システムが出来ている。災害時の避難訓練も実施し、夜間の避難訓練も計画中である。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ある利用者には糖尿病の食事管理を支援し、状態がよくなり、家族、本人に大変喜ばれたケースがある。前年度の改善課題であった水分と食事量のチェックは改善され、効果を上げている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体を囲むように庭があり、恵那山を展望出来る絶景のベランダには、長椅子が設置され、季節感を味わう事が出来る。トイレ、浴室、ホーム全体の壁や床は、和風で落ち着いた雰囲気である。居間は、空調、換気に配慮されており、居心地の良い場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理ダンス等利用者の持ち込み家具が多くあり、その人らしい居室になっている。居室入口には、ボランティアによる利用者の似顔絵が飾られている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。